ずいそう

アメリカ Conexpo 2005 視察記
—気ままにラスベガスを訪れて—

池　田　隆　太

成田空港からロサンゼルス経由で飛び立つこと約12時間，辺り一面砂漠しか見えなかった風景が，内陸に進むにつれ，がらりと変わった。ピラミッドの形をした建物や王様が住むような豪華絢爛な建物等，一瞬「ここはどこ？」と思わずうなるほどの衝撃を受けた。

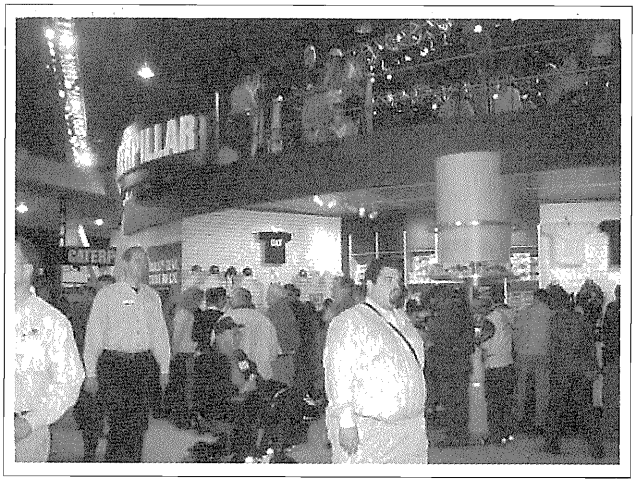
魅惑の街というか夢の街というべきか，「砂漠の中のオアシス」ラスベガスである。多くの人や活気であふれ，街自体スケールの大きさを感じるが，およそ人間が住めないような砂漠の中に，突如としてメトロポリタンを作るという発想そのものが大変なスケールの大きさを物語っている。

そのラスベガスで今年もまた世界最大規模の建設機械展示会「Conexpo 2005」が開催され，幸運にも視察するチャンスに恵まれ，3月15日から2日間訪問してきた。

このConexpoでは出展社数は2,300社，入場者数は実に10万人以上を数え，その出展エリア面積も日本のそれと比べ物にならないくらい大きなものであり，ラスベガスの街と同様，Conexpoのスケールもまた桁外れにでかい。

小生は前回3年前のConexpoにも視察する機会に恵まれたが，今回の展示会では前回に比べて若干の変化が見受けられた。

それは油圧ショベル，中でも小旋回タイプの展示が大幅に増えたことである。元々米国はブルドーザの国であり，油圧ショベルの台数は少なく，ましてや広大な土地を有するアメリカでは小旋回タイプの需要等殆どないに等しかったが，今回は世界最大の総合建設機械メーカのキャタピラー社をはじめ，各社ともずらりと展示していた。こと油圧ショベルにおいては日本の技術力が世界の最先端を走っており，小旋回タイプは日本発の建設機械である。この世界最大規模の展示会で堂々と主役を飾り，日本の技術力が改めて世界に認められたことを思うと，日本人である小生としては誇らしげであると同時に心地よかった。



写真—1　来訪者で賑わう会場内グッズショップ

一方で前回は競い合うように積極的に展示していた日本・韓国メーカが今回は非常に少なかった。小生が確認出来ただけ（兎に角出展エリアが大きく，どこに何があるか分からない程）で，日本の大手総合建設機械メーカは3社，韓国は1社のみで，その他は撤退していた。出展エリアの多くを欧米メーカで占め，幅を利かせている中で，あまりにも対照的であった。

その他，日本発という視点で見るとトヨタ，ホンダ，三菱等，3年前と比べ日本車が非常に多くなっていたのが印象的であった。街の至る所で日本車を見かけ，昔から「アメ車」に乗っていて最近日本車に乗り換えたという現地人は「日本車は壊れない，燃費がいい。エクセレント!!!」を連発。最近の日本車メーカ優位の現状を窺い知ることが出来た。

ともあれ簡単ではあるが，Conexpo視察での感想を述べてきたが，最後にラスベガスの街並についても少し触れてみたい。砂漠の中にビル群が立ち並び，緑あり，ゴルフ場あり，大型ダムありと色んなものが一色単になった人工的に作られた街である。

米国では現在住宅建設ラッシュといわれているが，ここラスベガスも同様で，高級コンドミニアムや別荘地，アクセス道路等の開発が盛んで，近年の人口増加率は10%強のようである。現在も十分に賑わいを見せているが，今後も更に拡大の方向にあり，まだまだ底を見せていない恐るべきビッグシティーである。ゴミは分別するどころか捨て放題，賭け事のしすぎで浮浪者になっている者あり，はたまたドライブスルー形式の結婚式場ありと，良く言えば何も考えずに気ままに過ごす事の出来る幻想的な街である。皆さん，老後に住むのにこんな街はいかが???

——いけだ　りゅうた　新キャタピラー三菱株式会社直販部
土木マーケット直販GP——